

第 88 回国際獣疫事務局（OIE）総会概要

1. スケジュール等

- (1) 日程：令和 3 年 5 月 24 日(月)～5 月 28 日(金) 5 日間
- (2) 開催場所：オンライン
- (3) 我が国からの出席者
農林水産省消費・安全局動物衛生課国際衛生対策室長 他



2. 主な内容

(1) アジア・極東・太平洋地域委員会

①第 32 回 OIE アジア・極東・太平洋地域総会の開催

ホスト国のタイより、本年 9 月に第 32 回地域総会をオンライン開催する旨の案内があった。

②OIE の取り組むべき世界的な戦略課題の選定

今後の科学的レビュー、ニュースレター、科学論文、総会の技術課題、その他 OIE の活動や会議において取り上げるべき課題について、アジア・極東・太平洋地域から「人獣共通感染症の予防」、「貿易関係書類及び手続きの電子化」、「ASF（ASF の封じ込め計画、ASF ワクチン開発及びワクチン使用のコントロール）」及び「越境性動物疾病のリスクとなりうる新たな動物感染症」の 4 課題を提案することとなった。

③OIE 総会における地域の共同意見に関する検討

ゾーニングとコンパートメンタリゼーション（第 4.4.6 条、第 4.4.7 条）及びアフリカ原産トリパノソーマ病（第 8.Y 章）に関する共同意見を豪州から発言することとなった。また、鳥インフルエンザ（第 10.4 章）に関する共同意見を日本から発言することとなった。（共同意見の詳細は後述）

④各種選挙への対応の検討

28 日に行われる理事会メンバー選挙、地域委員会事務局メンバー選挙、専門委員会選挙に向け、地域としての推薦者のとりまとめを行った。日本からは、地域委員会副議長に沖田国際衛生対策室長（OIE デリゲート）が推薦されたほか、コード委員会に村井清和氏（農林水産省動物衛生課課長補佐）、ラボラトリー委員会に川治聡子氏（農研機構・動物衛生研究部門）がそれぞれ推薦されることとなった。

また、理事会メンバー、事務局メンバーとともに地域委員会活動の中心を担う地域コアグループメンバーに、イラン、ニューカレドニア、インドネシア、インドのデリゲートが立候補し、委員会により承認された。

（２）技術課題：獣医組織のワンヘルスレジリエンスと OIE

OIE 野生動物ワーキンググループ議長 William Karesh より、COVID-19 パンデミックによって明らかとなった、獣医サービスのワンヘルスレジリエンスに対する脆弱性（野生動物衛生管理能力の欠如、野生動物疾病の報告体制の不備、診断体制の脆弱性）と、考えられる対策（セクター横断的な活動の強化、疾病出現のリスク管理と野生動物衛生のワンヘルス戦略への統合、各国の危機管理能力の向上等）の提案に関する発表が行われた。

これらの提案に対し、加盟国からはおおむね支持する旨の発言のほか、ワンヘルスの定義を定める必要性などについての意見があった。また、英国から、5月4日に G7CVO（首席獣医官）会合を開催し、野生動物と獣医組織をテーマとした議論を行ったことについて報告があった。

（３）コード委員会の活動報告

コード改正案に対する各国からの主な発言と各章の採択の状況は以下のとおり。

・第 4.4.6 条、第 4.4.7 条 ゾーニングとコンパートメンタリゼーション

アジア・極東・太平洋地域委員会 32 か国を代表して、豪州より、「一時的な保護地域」の考え方は越境性動物疾病の侵入リスクに備えつつ安全な国際貿易を継続させる上で有効であり、本案の採択を支持するとの発言があった。本章は全会一致で採択された。

・第 7.Z 章 採卵鶏生産システムのアニマルウェルフェア

冒頭、コード委員会議長より、OIE では生産現場におけるアニマルウェルフェアに関する指針（guidance）として畜種ごとのコードを策定してきていること、最後の畜種となる採卵鶏のアニマルウェルフェアに関する OIE コ

ードについては既に5回意見照会され、新たな科学的知見や、世界に存在する多様な飼養形態を考慮に入れて修正を重ねてきていること、本年2月のコード委員会において、更なる修正につながるような、いかなる新たな理論的根拠を伴うコメントも受領しなかったことについて説明があった。

さらに、本案は多様な考え方や実態があることを踏まえて最善のバランスを探った結果として策定されており、遵守していないからと言って既存の生産の停止が求められるような法的な文書ではなく、各国がそれぞれの生産現場におけるより良いアニマルウェルフェアを進展させる上での推奨事項(recommendation)であるとの説明があった。

各国からは以下のような意見があった。

アイルランド (EU27 か国を代表) : 止まり木等について「望ましい」では不十分であり、「設置すべき」と修正すべきである。コードは中長期的なアニマルウェルフェアの改善につながるものであるべきと考えており、支持できない。

英国 : 止まり木の設置や強く動機づけられた行動の実現が十分確保されていない懸念はあるが、全ての国が直ちにに取り組むことが困難であることは事実であり、採択は支持する。

チリ : 一部の勧告に従うためには、大部分の生産者が生産形態を変更する必要がある内容となっていることから、議論を継続し、柔軟性が確保されるように修正すべき。採択を棄権する。

米国 : 本案の採択を支持。一方で、採択に当たり、多くの国が懸念を感じている止まり木等の「望ましい」との表現を削除し、代わりに「設置する場合には」とする修正案を提案する。

N Z : 採択を支持するが、止まり木等について「望ましい」では不十分であり、「設置すべき」と修正することが望ましい。もしこのまま採択されるのであれば、今後見直しが行われることを希望する。

メキシコ : 原案は全ての生産システムに適用可能なものとはなっていない。採択を棄権する。

セネガル (アフリカ地域 54 か国を代表) : 原案での採択を支持。

コロンビア : 世界中の異なる生産システムを考慮すべきであるとのコメントを支持。採択を支持せず、更なる議論を求める。

カナダ : 原案での採択を支持。微修正により各国から採択の合意が得られるのであれば修正を受け入れる。

インド : 原案に反対。「望ましい」との表現を削除する米国の修正案を

支持。

アルゼンチン：米国の修正案を支持。アメリカ地域で使用されている全ての生産システムに対応すべきであるとのチリ・メキシコのコメントに同意。

グアテマラ：チリ・メキシコ・アルゼンチンのコメントを支持。本案が鶏卵産業に与える影響を考慮して、採択に反対。

25 日の議論の場において、挙手による反対及び棄権の意向の確認が行われた結果、全会一致には至らなかったことから、最終日の 28 日に電子投票システムを使った正式な投票が行われることとなった。28 日の投票の結果、採択の要件である 3 分の 2 の賛成が得られなかったことから、本総会では採択されなかった。

・第 8.Y 章 アフリカ原産のトリパノソーマ病

セネガル（アフリカ地域 54 か国を代表）、豪州（アジア・極東・太平洋地域 32 か国を代表）、スペイン（EU27 か国を代表）、アルゼンチン、バルバドス、アフリカ連合から、貿易上の不利益等を生じる懸念があることから、科学的根拠に基づかない地理的名称の使用をやめるべきとの発言があり、議長より「アフリカ原産」を「*Trypanosoma brucei*, *T.congolense*, *T.simiae*, *T.vivax*」と修正することが提案され、採択された。

・第 10.4 章 鳥インフルエンザ

日本（アジア・極東・太平洋地域 32 か国を代表）より、最新の科学的な知見に基づき、本章の対象を高病原性鳥インフルエンザにしつつ、人の健康に重篤な影響を及ぼす低病原性鳥インフルエンザ（LPAI）について通報対象となる OIE リスト疾病に残すという本案を支持するが、ワンヘルスの観点からも、引き続き LPAI のモニタリングを行い、病原性の変化や人獣共通感染症としての特性が確認された LPAI がリスト疾病もしくは新興感染症として確実に通報されることが重要であることから、OIE が加盟国によるこれらの通報をサポートし、加盟国間の情報共有を促すことを求める旨を発言した。本章は全会一致で採択された。

・第 15.2 章 豚熱

豪州より、「野生イノシシにおける豚熱の発生の通報は、第 15.2.2 条の規定を満たす限り、その国の豚熱のステータスに影響しない」という文言に関し、豚熱は OIE の公式ステータス認定の対象疾病であり、イノシシにおける

発生通報があれば、公式ステータス認定の規定に従った評価が必要であることから妥当ではないとの指摘があり、コード委員会議長から指摘を踏まえて文言を一部修正した上での採択が提案され、採択された（豪州は棄権）。

(4) 科学委員会の活動報告

OIE が公式にステータス認定を行っている 6 疾病のうち 5 疾病について新たな認定国（地域）が勧告された。

1	口蹄疫	
	・ ワクチン非接種清浄国	新規認定なし
	・ ワクチン非接種清浄地域	・ ブラジル ・ State of Paraná ・ State of Rio Grande do Sul ・ One zone including the States of Acre and Rondônia and 14 municipalities in the State of Amazonas and five municipalities in the State of Mato Grosso
	・ ワクチン接種清浄地域	・ コロンビア Former high surveillance zone merged with Zone II (Eastern Border) ・ ロシア ・ Zone-South including Southern and North Caucasian Federal Districts ・ Zone-Sakhalin consisting of the Island of Sakhalin and the Kurile Islands
	・ 公式管理プログラム	新規認定なし
2	牛肺疫	
	・ 清浄国	パラグアイ、イタリア
3	豚熱	
	・ 清浄国	新規認定なし
	・ 清浄地域	・ コロンビア : central-eastern zone ・ ブラジル : State of Paraná
4	牛海綿状脳症	
	・ 無視できる BSE リスクの国	カナダ、アイルランド
	・ 管理された BSE リスクの国	新規認定なし
5	小反芻獣疫	
	・ 清浄国	北マケドニア共和国
6	アフリカ馬疫	新規認定なし

(5) 生物基準委員会（ラボラトリー委員会）の活動報告

以下のリファレンスラボラトリー、コラボレーティングセンターが新たに承認された。日本からは、JRA 競走馬総合研究所（栃木県）が馬インフルエンザのリファレンスラボラトリーとして新たに指定された。

○リファレンスラボラトリー

	疾 病 名	施 設 名	所 在 地
1	鳥インフルエンザ	Reference Laboratory for Veterinary Quality Control on Poultry Production, Animal Health Research Institute, Agriculture research Centre	エジプト
2	ブルセラ病 (B.abortus, B. melitensis)	Department of Brucellosis Research, Animal Health Research Institute, Agricultural Research Center	エジプト
3	馬伝染性子宮炎	ANSES, Laboratory for Animal Health, Normandy site, Physiopathology and Epidemiology of Equine Diseases (PhEED) Unit	フランス
4	牛ウイルス性下痢 粘膜病	National Reference Laboratory for Bovine viral diarrhea/Mucosal Disease, Friedrich-Loeffler-Institut, Federal Research Institute for Animal Health, Institute of Diagnostic Virology	ドイツ
5	馬インフルエンザ	Equine Research Institute, Japan Racing Association	日本
6	アフリカ豚熱	National Surveillance and Research Center for Exotic Animal Diseases (National Reference Laboratory for African Swine Fever), China Animal Health and Epidemiology Center	中国

○コラボレーティングセンター

	項 目 名	施 設 名	所 在 地
1	Economics of Animal Health	University of Liverpool, Centre of Excellence for Sustainable Food Systems, Global Burden of Animal Diseases Programme, Institute of Infection, Veterinary and Ecological Sciences	英国
2	1 と同じ	Norwegian Veterinary Institute	ノルウェー
3	1 と同じ	Utrecht University, Department of Population Health Services	オランダ
4	Good Beekeeping Management Practices and Biosecurity Measures	Istituto Zooprofilattico Sperimentale delle Regioni Lazio e Toscana “M. Aleandri”	イタリア

また、以下の診断キットが更新された。

診断キット名	製造会社	使用目的
Pourquier IIF <i>Taylorella equigenitalis</i>	IDEXX Laboratories	種牡馬、牝馬の生殖器スワブから菌体を検出

(6) 水生委員会の活動報告

①コード及びマニュアルの改正案は現案のとおり採択された。

【コード】

・第 3.1.1 条 用語の定義

WRO から、animal waste の定義に反対するとの発言があった。(団体のため、投票権なし)

・第 4.X 章 (十脚目虹色ウイルス (DIV1) の OIE リスト疾病への追加)

台湾から、DIV1 の OIE リスト疾病への追加に対する支持が表明されるとともに、ポジティブコントロールの提供の用意があるとの申し出があった。

水生委員会議長 Dr. Ingo Ernst は、DIV1 に関する国際的な科学ネットワークを強化するため、ポジティブコントロールの提供を各国に呼びかけた。

【マニュアル】

・第 2.3.3 条 (*Gyrodactylus salaris* による感染症)

フィンランド (EU27 か国代表) から、同章第 2.3.5 条にも記載されている通り、*Gyrodactylus salaris* は、淡水に加え汽水でも生息が可能であることから、第 1 条の記載を修正すべきとの提案があり、当該提案 (freshwater の削除) を採用した上で採択された。

・第 2.3.9 条 (コイ春ウイルス血症)

フィンランド (EU27 か国代表) から、表 4.1 において推奨されておらず、章内で他に言及のない in-situ hybridisation について、第 3.5.3 条から削除すべき旨発言があった。議長からは、検査の妥当性に関する研究は継続されることとなっているため、第 3.5.3 条から検査方法を削除するかどうかを含め、次回以降の会合で議論する旨説明があり、今次会合では修辭上の修正のみ加え採択した。

②OIE 水生動物衛生戦略 2021-2025

水生委員会議長の Dr. Ingo Ernst より、養殖生産の重要度が高まってきたことを受け、世界中の水生動物の健康と福祉を改善し、持続可能な経済成長、貧

困緩和、食料安全保障に貢献するとともに、それによって持続可能な開発目標（SDGs）の達成を支援するために、OIE 水生動物衛生戦略 2021-2025 年を開始するとの説明が行われ、多くの国がこれを歓迎した。

なお、当該戦略においては、優先的に行う行動の枠組みとして、①コード・マニュアルを含む国際基準の設定、②国際基準の適用や小規模養殖への支援を含む能力開発、③緊急時の対応・早期発見システム・AMR ガイドラインの提供を含むレジリエンスの確立、④動物福祉・科学ネットワークに対するリーダーシップの構築といった4つの目標を掲げている。

（7）7次戦略計画

事務局長の Dr.Monique Eloit より、2021-2025 年に向けた7次戦略計画について説明が行われ、5つの戦略目標（①科学的専門性、②デジタルトランスフォーメーションを実行するためのデータガバナンス、③加盟国のニーズに対するハイレベルな支援、④世界的課題に対処するためのパートナーとの連携の強化、⑤ツールやプロセスの近代化を通じた機動性と効率性の確保）毎の活動計画の説明があった。

（8）選挙

①事務局長選挙

2025 年までの任期となる次期事務局長選挙が行われた。候補者は現職のモニック・エロワ氏（フランス）と、オデイ・シハブ・アメッド・アルアバジ氏（イラク）であり、現職のモニック・エロワ事務局長が再選された。

②理事会選挙

議長は Dr.Hugo Idoyaga Benitez（パラグアイ）、副議長は Dr.Christina Bruschke（オランダ）が選出された。

アジア・極東・太平洋地域委員会からは、現職の Dr.Him Hoo Yap（シンガポール）が理事会メンバーに再選された。また、現議長である Dr.Mark Schipp（豪州）は前議長として投票なしで理事会メンバーに選出された。

③地域委員会事務局メンバー

アジア・極東・太平洋地域委員会事務局メンバーとして以下が選出された。副議長に、日本デリゲートの沖田国際衛生対策室長が選出された。

議長：Dr.Baoxu Huang（中国）

副議長：Dr.Masatsugu Okita（日本）、Dr.Tony Zohrab（NZ）

事務局長：Dr.Ye Tun Win（ミャンマー）

④ 専門委員会選挙

4つの専門委員会委員が投票により選出された。我が国からは、コード委員会メンバーに村井清和氏（農林水産省動物衛生課課長補佐）、ラボラトリー委員会メンバーに川治聡子氏（農研機構・動物衛生研究部門）が選出された。

各委員会の議長は以下のとおり。

- ・コード委員会：Dr.Etienne Bonbon（フランス・現職）
- ・科学委員会：Dr.Cristobal Zepeda（米国・現職）
- ・水生動物委員会：Dr.Ingo Ernst（豪州・現職）
- ・ラボラトリー委員会：Dr.Emmanuel Couacy-Hymann
（コートジボワール・現職）

（9）今後のスケジュール

第 89 回 OIE 総会は 2022 年 5 月 23 日から開催されることが提案された。会議の形式は、今後開催される理事会等で検討する。また、今次総会のレポートのドラフトは近日中に各国に送付され、約 2 週間の確認期間を経て最終版が公表される予定。